

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>20</b>

事業所番号	1472602786
法人名	有限会社 良観
事業所名	グループホーム ぽっかぽか
訪問調査日	平成22年12月6日
評価確定日	平成23年1月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
外部評価は20項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
[取り組みの事実]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
[次ステップに向けて期待したい内容]  
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472602786	事業の開始年月日	平成17年4月1日	
		指定年月日	平成17年4月1日	
法人名	有限会社 良観			
事業所名	グループホーム ぽっかぽか			
所在地	( 〒252-0246 ) 神奈川県相模原市中央区水郷田名 2-20-14			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成22年11月26日	評価結果 市町村受理日	平成23年1月31日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本来のグループホームとは何か、利用者の幸せとは目先の幸せではなく将来の幸せだと、強い信念を基に運営する様に心掛けている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成22年12月6日	評価機関 評価決定日	平成23年1月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- ・ R相模原駅からバス17分最寄バス停から徒歩15分、近くに皐月の候に、大量の鯉のぼりが棚引く事で知られている相模川が流れ、色とりどりの数多くの錦鯉が泳ぐ引き込み用水路が人家を縫って流れ、川のせせらぎ、太陽のぬくもり、季節の彩が味わえる環境の住宅街にグループホームぽっかぽかがある。
- ・ ホームは木造2階建ての一般家庭と言った風情で、入り口を入ると野菜や花が植えられた畑があり、そこから皆が集う居間の縁先へと続く、一階に事務室、風呂、トイレ、食堂兼居間、キッチン5つの居室があり、2階に3部屋がある。
- ・ 運営に当たって代表者は「個別に残された能力を最大限生かし、生活する事により、退所者を減らし寝たきり利用者も出さない」との強い思いで「時間はかかってもいい、自立した行動の支援をする」を職員に徹底して全職員が理解共有して介護支援を行っている。
- ・ このホームでは入居者が何らかの役割を持って其の人なりの役立ちを感じながら暮らす事とやりたい事が出来る、自由を感じて暮らす事で認知症の中核症状を進行させない取り組みが日常の介護支援として取り組まれている。
- ・ 「おいしく食べる事、食べられることが健康を維持する」其の為に個々人の運動、体操、トレーニング意欲を引き出し、全職員によって支援がされ、自立歩行やオムツのない生活にも繋がっている。
- ・ 地域に根ざしたホームとして、地域の方から入居者の尋ね来るのを楽しみにして頂き、散歩時に野菜等の収穫物や花などを頂く間柄の地域交流が行われている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ぽっかぽか
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出来ている	理念「お客様の立場に立ち、何を望んでるかを中心から考え、一つずつ確実に社会に貢献していく」と謳って代表者は人に喜ばれる事を、その人に与える「癒し」を持って社会貢献と考えている。「一人が笑えば皆も笑う、丸い心で家族は何時もぼっかばか」を理念と共に介護の心として介護に取り組んでいる	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来ている	ホームは地域に溶け込んで、入居者を今までの暮らしと変化の無い暮らしが介護上の必用条件と考え、入居者をして普通の家で普通に近所の人との交わりで介護支援をしてる。近所の方から季節の野菜が届けられたり、入居者の散歩時に花や野菜などを頂く交流が、行なわれている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出来ている	2ヶ月に1回自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、入居者、ホーム長、取締役代表の参加でホームの現状の運営状況と、今後の運営に関する思いを告げて、質問、意見、提案などを受け、話し合を行ない参加者を通して地域へ発信している。また、地域情報や包括支援センターからの研修情報など頂き、運営に反映している。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出来ている	利用者の出身地の生活保護担当者と連絡をとり、入居者の支払いや、手続きを含めた法的解釈など諸所問題を相談し、教えを請う等、都度連絡を取って解決している。その他、研修などの連絡も受けて、スキルアップの為、職員が参加して市の窓口とは交流が行われている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来ている	身体拘束その他、利用者の行動を制限しない、緊急やむない場合も家族に連絡の上、同意を得てマニュアルに沿った対応をすると謳っていて、更に管理者を初め職員が、拘束を行うことのデメリットを研修などを通じて共有認識している。ホーム玄関は、日中施錠もなしで、職員の寄り添いと見守りで対応している。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	出来ている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来ている	入居契約時に重要事項に、内外部の苦情相談窓口がある事を説明して、運営規定でその対応について説明している。日常生活に関する苦情・意見は、入居者から直接聴き取るように努め、家族の来訪時にホーム長や職員から生活状況の報告と共に、意見、苦情等も聴いて、記録に残しフロア会議で検討の上、返答と共に出来るだけ早く解決するように努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来ている	法人代表や管理者は、月1回のフロー会議の中で職員の意見や要望などを聴いて、意見吸い上げの機会を設けている。また、代表や管理者と職員は気軽にはなせる関係にあるが、今後更に、職場内の交流に留めず、リ克雷ション等を通じての意思疎通も深め、そこから得た意見要望なども検討して運営に反映するように検討している。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来ている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来ている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	出来ている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来ている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来ている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ている			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来ている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来ている	日々の会話から嘗ての「思い出の場所」や「人」との関係で大切にしている想いや希望を聴き記録に記し、出来るだけ本人の意思に沿った支援を心がけ「お墓参り」「住んでいた家」などを訪れる支援を職員の手で行われている。更に家族の確認をとりながら、友人の訪問受け入れ、や手紙の投函、電話での取り継ぎ、連絡などの支援も行っている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来ている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来ている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来ている	日々の生活の中で夫々の訴え・希望を聴き、会話での表現が難しい入居者には、仕草や表情から判断して、家族の話などを合わせ意向を把握し、全職員で共有し、個々の想いに沿える支援に努力している。しかし困難なものもあり、「出来る事、出来ない事」を説明し理解して頂く様にしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ている		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ている	日々の観察記録を下にと、本人・家族・職員等の意見を取り入れて計画作成者を中心に6ヶ月を基準に、短期的には3ヶ月の見直しでカンファレンスで検討し、現状に即した計画を作成し、出来た介護計画は、本人・家族に確認を頂き実施している。また、モニタリングを計画的に行い、計画とのずれが生じないように努めている。変化のある時は都度の対応を行っている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来ている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ている	入居時にかかりつけ医の有無と継続診療の希望を確認して、希望者には継続診療での支援を行い、結果情報は家族経由で共有するようにしている。ホーム提携医の診療の希望者は週1回のDr往診で利用者の医療的管理をしている。更に希望により専門科の受診へも支援し適切な医療行為が受けられる様支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来ている	ホームでは終末期の介護と看取り介護を利用者、家族の意思を尊重して対応する方針を持っていて、重度化・終末期のケアのあり方について、家族に書面で説明している。まだホームでの事例はなく、医療機関との連携と、職員の意識と知識の向上を図り、体制作りをしたいと考えている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出来ている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	出来ている	運営規定11条に火災、その他、自然災害に対処すべく防災計画の策定と定期的な避難訓練の実施を謳い、年2回の避難訓練実施を計画している。平成22年12月までに入居者を含めた避難訓練の実施を予定している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来ている	入居者を人生の先輩として敬い、家庭的な雰囲気の中にも誇りやプライバシーを損ねることの無い言葉遣いと態度に心がけ、日々の支援がされている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ている	調理下ごしらえで薬味としての「ねぎの小口切り」と盛り付け、配膳、下膳、食器拭きなど、出来る人に出来る事をして頂き、このホームでは全員が何らかの役割を持って食事作りをしている。調理法も刻み、柔らか目、などその人に合わせ、食事では職員と談笑を交えてその人のペースで楽しみながら行われている事が調査時の食事同席で確認出来た。入居者の要望で回転すし等、外食等も取り入れ、楽しめる食事支援が行われている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来ている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来ている	排泄チェック表でひとり一人の排泄パターンを全職員で把握し、その人に合った声かけ・見守りの支援をしている。汚れたら洗えばいい、時間はかかってもいい、オムツの無い自立した排泄での生活を、代表の熱い思いから現在、実現し、夜間も昼間と同様の支援で自立が来ていて、転倒防止の見守りの他は特別な対応は行っていない。	今後の継続	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来ている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来ている（ただし、共同生活上必要なルールの範囲内の事）	曜日・時間を決めず、利用者個々の希望を聴き柔軟に対応している。入浴が清潔保持のみならず、身体観察からの健康管理の効用を踏まえて、入浴を嫌がる入居者にも時間や人を変えて声かけで促し無理強いすることなく支援している。また季節のゆず湯、菖蒲湯なども取り入れて楽しみの工夫もある。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来ている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来ている	散歩を希望する利用者が多く、天気の良い日は利用者の健康チェックの後、犬を連れての散歩、単独の散歩などホーム近くの相模川に沿った散歩コースを初めとし、時には買い物なども交えて対応している。また、家族が来所し、外食・買い物等に入居者と共に出かけられる方もいる。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている	騒音や異臭なども無く、居間兼食堂の大きなガラス戸からの採光が良く、明るい。居間には、テーブルの他、ソファも置かれ、続きに畳の部屋もあり座卓が置かれている。壁面には入居者のスナップ写真が貼られ、テーブルには散歩時に入居者が頂いた花が蕾みを膨らませ季節を感じさせており、寛げる工夫がされている。部屋には犬の他猫もいて、入居者に可愛がられている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている	重要事項説明書に馴染みの深い品物でご飯茶碗、湯飲み、箸、履物、冷暖房器具、衣装ケースなどお持ち下さいと謳って入居時に説明し、各部屋には夫々の馴染みの茶箆筒や、椅子、鏡台、家族写真、ぬいぐるみ、更に仏壇、等で夫々思いの設えで自分の部屋が工夫されている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ている		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム  
ぽっかぽか

作成日

H22. 11. 26

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	本来のグループホームは何をするべきなのかを追求し続ける	職員が変わっても目標を変えずに現状以上の運営が出来る事	日々の取り組みや、問題が起きた時点での会議 及び 実践	目標にゴールは無い為、常に行動が必要

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。